

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501795		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家平岸 しらかば		
所在地	札幌市豊平区平岸5条12丁目1番26号		
自己評価作成日	平成29年5月25日	評価結果市町村受理日	平成29年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし信じあえる希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるように配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事や地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、利用者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆつくりと関わりをもち、落ち着いた環境の中でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0170501795-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年6月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕の申し送り時に理念の確認を行っている。また理念を踏まえたユニット目標、個人目標を掲げ、日々実践に努めている。ホーム全体としては今年一年「相互交流」という目標を掲げ取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	「資源回収」や「一円玉募金」など町内会からの案内があった場合は管理者を中心にできる範囲で参加しており、恒例になっているものもある。また日常の散歩時に近所の方と挨拶を交わすことがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や散歩時等で職員の対応から認知症の方への接し方・介助方法などを伝えるよう努めている。推進会議でも話をする機会があり少なからず学びや理解に繋がっていると感じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では行事や事故、日常の取り組み、様々な事例を用いて報告している。職員に加え、家族や他事業所の参加が増えており意見交換や学びの場になっている。全職員には文章で伝えている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に管理者が対応しており、事故報告や市・区主催の会議への参加、生活保護の担当者とのやりとり等を通して関係を築くよう努めている。また職員は管理者からの報告を受け理解や把握に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々身体拘束にならないよう声かけや居室・ホール内の環境整備等気にかけて取り組んでいる。施錠はしているが、ホーム内では交流を図る為各階を行き来する機会が増えており、以前と比べると閉鎖感は少なくなったと感じている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部の研修に参加し虐待について定期的に学ぶ機会を持っている。虐待に繋がる要因として職員のストレスが挙げられるが、管理者やリーダーは普段から各職員の話や傾聴したり、助言等を行いストレスの緩和に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新聞記事や内部・外部研修の中で取り上げられていることもあり、少なからず学ぶ機会がある。現在利用している方はいないが、特に成年後見制度に関しては今後利用する方が入居されることも考えられる為さらに学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者より契約書や重要事項説明書にそつて、ゆっくりと説明を行い、理解や同意を得ている。その他サービスの利用や身体状況の変化等に応じて家族の同意や意向を伺っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会があった場合は管理者や職員から近況を報告すると共に意見や要望はないか伺うようにしている。入居者の方についても出来る限り希望を聞き取り、運営に反映させるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議においての職員の意見や提案については管理者へ随時報告している。また、代表者や管理者は意見や提案を元に必要に応じて反映してくれたり、反映できるよう考えてくれている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、業務内容の見直しを行い、休憩時間の確保に努めている。また、各職員の契約条件は違うが、勤務日数・休日希望等可能な限り希望にそえるよう考えてくれている。年2回食事会があり、職場環境を良好に保てるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回内部研修を行っており、各職員に合わせた内容で勉強する機会を設けている。外部の研修も参加できるよう随時研修案内が配布されており、希望に応じて参加することができている。学んだことは日々のケアに活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居者の家族の方が同業者であったり、運営推進会議に他事業所の方が参加することも増えており、同業者との関わりは少なからず持っている。その中で情報交換をしたり、互いの施設を見学する機会が増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する段階で不安なことや要望は伺っているが、入居後しばらくは環境の変化に不安を感じていると思われる為本人に寄り添ったり、言葉かけを多くするなど安心していただける対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する段階で不安なことや要望等は伺っている。しかし、入居後の方が色々なことに気づくこともある為、面会時には随時近況報告と共に希望・要望はないか伺うようにしており、慎重に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	殆どの家族が第一に新しい環境に慣れることを望んでいる。入居者本人にとっても不安が沢山ある中で新しい環境に慣れることが第一に必要なと思われる為安心して頂けるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活および活動などの関わりを通して、利用者から教わる事が多く、日々学ばせて頂いている。活動を共にすることで喜んだり、褒め合うこともあり、程良い距離感で関係を築くことができています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際に近況報告を行うと共に心配事や希望はないか伺っている。面会の頻度に違いはあるが職員側から質問をして話のきっかけを作り、情報を引き出したり、話しやすい雰囲気作りを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等が突然来設されることもあるが、個人情報の兼ね合いからキーパーソンに確認を取った上で面会をして頂いている。また、夫婦で入居されている方もおり、日常的に会う機会を持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には利用者同士でぶつかり合うこともあり、離れる時間を作ったり、職員が介入することもある。また交流が難しい方についても輪の中に入り、職員が橋渡しや気持ちを代弁する等の対応を行うことにより、良い関係を保つことができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が対応しているが、退居後も入居中の写真を渡したり、書類の確認等で家族と連絡を取り合うことがある。また、いつでも話を聞いたり、相談にのれる環境にはなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや日常の会話、表情、行動等から思いや希望、意向の把握に努めている。思いを伝えることが困難な方については、家族から聞き取りをしたり、選んでいただけるような工夫をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス担当者からある程度の情報はいただいているが、入居後も利用者や家族と会話を通して情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の都合ではなく、利用者の希望や状況に合わせて柔軟に対応している。1日の中でも気分や体調の変化により過ごし方に違いがあり日々把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や日常の中で職員間の情報・意見交換をしたり、各職員は介護計画の評価を行っている。本人・家族より希望や意見も伺っており、それらを踏まえて現状に合った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	取り組み内容やその時の様子、変化等を記入している。職員はその記録をもとに情報を共有し、日々の対応や介護計画の見直しを行っている。今後も内容が充実した記録になるよう取り組んでいきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望・要望を伺いながら、本人の状況に合わせて例えば、整骨院の利用やおむつサービスを受けるなど様々な地域資源を取り入れている。今後も必要に応じて検討していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	呼びかけにより町内会の活動に参加したり、近隣にある小学校からのお誘いもあり継続して交流を図ることができている。ホームとしても中学生の職業体験を受け入れており、楽しみの一つとなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週に1回訪問診療を受けている。事前に近況を報告するFAXを送っており、情報を共有した上でスムーズに適切な診察が受けられるよう努めている。その他皮膚科や歯科の訪問診療も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を利用している。訪問時は近況を報告し情報共有に努めている。看護師と良好な関係が築けており、相談をしたり、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はお見舞いに行きながら病院関係者と情報交換を行っている。1か月を過ぎると退居になってしまうことから管理者が窓口となり、ムンテラに参加したり病院側と相談をしながら早期退院ができるよう取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期であると判断した場合または終末期に近づいてきた段階でホーム側と話し合いの場を設けている。本人や家族の意向を聞き取りながら、ホームで出来ること・出来ないこと等の説明を行っている。主治医との話し合いの場も持っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルや緊急時ファイルを作成しており、どの職員でも慌てず、同様の対応ができるよう備えている。定期的な訓練は行っていないが、各職員は定期的なマニュアルの確認に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の立会による訓練やホーム内での自主訓練を継続して行っているが訓練を行っていても職員の間では不安の声が聞かれている。基本的な訓練や様々な状況を想定した訓練を今後も行っていきたい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性であっても羞恥心を感じている方がいる為、特に入浴や排泄介助時は対応を心がけている。また、一人ひとりに合わせた声掛けを行うよう心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や関わりを通して、本人の希望や思いを引き出すことができるよう心がけている。選択肢を設け、出来る限り自分で選んでもらえるよう促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の内容によっては待っていただくことや希望に添えない場合もあるが、出来る限りその日、その時の利用者の希望を叶えられるよう職員間で協力し合いながら対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や日常においても口紅やネイルをつけることで喜ばれている。元美容師の方がおり、他者の寝ぐせ直しや入浴後のドライヤーがけをしていただくこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは一緒に行っている。やりがいや役割になっている方も多く、利用者間で分担しながら個々の力を発揮して頂いている。昼食は一緒に摂り、希望の聞き取りや好みの把握に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や同じようなメニュー・食材が重ならないよう配慮しながら食事を提供している。また水分量が少ない方がいる為、好みの物を提供したり、場面転換や気分を盛り上げながら水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や起床時、就寝時に個々に合わせた口腔ケアを行っている。訪問歯科を利用している方もおり、汚れが溜まりやすい箇所や歯間ブラシを使用したケアの仕方等のアドバイスを受け取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンや状況の把握に努めている。できる限りトイレで排泄ができるよう早めの声掛けや誘導を行っている。また、排泄の有無を伝えられる雰囲気・環境作りにも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取・適度な運動の促しはもちろん、各利用者の排便状況に合わせて下剤の調整も行い便秘の予防に努めている。今後も自然排便に繋がるよう取り組んでいきたいと思う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日は決めているが、利用者からの希望や体調不良、失禁等により臨機応変に対応している。入浴中は会話やスキンシップを図り楽しめるよう取り組んでいる。また入浴以外でも清拭を行い清潔保持に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人からの訴えや体調を見ながら個別に休息の時間をつくっている。休息することで一時的ではあるが体力の回復に繋がっていると思われる。また浮腫の軽減や褥瘡の予防にもなっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の薬の把握に努めており、処方された薬を適切に服用していただけるよう努めている。また薬の変更時には記録だけではなく、申し送りノートにも記載し職員全員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性入居者が大半であり、特に家事仕事は入居者間で競うように参加されている。他者と協力したり、時には分担しながら個々の力を発揮していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望が言えたり、自立度の高い方への支援に偏りがちではあるが、日常的に天気の良い日には玄関やホームの駐車場で外気浴を行っている。その他、近隣の散歩や買物、入居者の希望を踏まえた外出行事等行い、気分転換や刺激となるよう支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が多い為ホーム側で管理させていただいている。しかし、行事や外出時にはお金を渡し、職員の立ち会いのもと自身で支払いができる機会をつくっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の方ではあるが、定期的に家族から連絡がある。また個人情報の兼ね合いからキーパーソンの方に各入居者がメッセージを書いた年賀状を郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の協力も得ながら共用部分の掃除を行っている。また「寒い」と訴える方もいるが温度・湿度計をこまめに確認しながら調整を行っている。ホールの廊下には日常の写真を掲示したり、散歩に行った際に摘んできた花を飾るなど利用者と一緒に共用空間作りに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファーに集まる傾向はあるが、別のソファーや食堂席、自室等本人の好きな場所・落ち着ける場所で過ごして頂くことができている。中にはソファーの座る位置まで決めている方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物があれば持ってきて頂くよう伝えており、家具だけではなく茶碗や箸等細かい物も持参されている。入居後も身体状況により家具の配置換えや必要な物も出てくる為利用者・家族と相談しながら慎重に進めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやわかることは出来る限り行って頂いており環境作りにも配慮している。できないこともすぐに手を貸さず声掛けをしたり、さりげなくフォローすることで個々の能力を引き出せるよう努めている。		